

# 三重ぐるり

MIEGURURI

「三重ぐるり」のコーナーでは、毎号テーマを設け、そのテーマに沿った三重県内の市民活動団体を紹介しています。今月号のテーマは「障がい者支援」。日ごろ障がい者支援に関わる活動をしている団体を、県内の市民活動センターから紹介していただきました。

## 社会福祉法人 あじさいの家

情報提供：みえきた市民活動センター

〒511-0426 いなべ市北勢町其原 784-1 ☎0594-82-0301 ✉ajisaie@m2.cty-net.ne.jp



普段の創作活動

あじさいの家は、重度の障がいのある方が日中の活動を行うために通所している施設です。生活面（移動、食事や排せつなど）では介助の必要な方ばかりですが、毎日笑顔のあふれる場を目標としています。重度、それも最重度と呼ばれる障がいの程度の重い方たちの通っている施設は、誰かの介助を受ける事が目的のように思われがちですが、あじさいの家ではそれを目的にしているわけではありません。確かに日常生活を送る上で介助は必要ですが、そのことよりも一人ひとりが『自分らしく生きる』ことを大切にしています。ですから毎日の活動はいろいろなことに取り組んでいます。

通所されている利用者のことは『なかま』と呼び、スタッフはお世話する人ではなく、同じ空間、時間を共有する『なかま』の一員という立場で接しています。

『なかま』の活動としては、創作活動、身体活動、音楽活動、訓練、作業的活動などおもに施設内で行う活動と、外出（個別や全員など）や宿泊体験、いろいろな行事やイベントへの参加など幅広く取り組んでいます。

ぜひ一度お立ち寄りいただき『なかま』と一緒に過ごしてみませんか？

ブラックライトを使った人形劇では、制作から出演までみんなで取り組み、いなべ市の保育園を中心に、県のイベントなどでも積極的に参加しています。今後もお声をかけていただければ人形劇の上演を行っていきたいと思います。

## Confeito ～こんぺいとう～

情報提供：市民ネットワークすずかのぶどう

✉sas.tanpopo@gmail.com



発達障がいの疑似体験を子どもたちに説明している様子

こんぺいとうは自閉症スペクトラムの子どもを持つ親たちが、わが子の困難な部分を知り、理解を深め、お互いの工夫などを持ち寄り少しずつ解決していったり、子どもたちが将来少しでも楽しくコミュニケーションできて、自立して生活をするためにはどうしたらよいかを和気あいあいと勉強しあう会です。

啓発活動として、発達障がいの疑似体験を学校などに出向いてしています。

まずはメールにてお願いします (^\_^)v

会として発足してから早いもので14年になります。乳児期、幼児期、学齢期の経験、体験をお話ししながら子育てのヒントが一つでも見つければ良いなとおもいます。お気軽にご参加ください。

## 特定非営利活動法人 工房 ゆう

情報提供：津市市民活動センター

〒514-0834 津市大倉 10-25 (JR 阿漕駅から徒歩 3 分) ☎059-271-6266 (同 fax) ✉koboyuu1025@yahoo.co.jp



学童保育での出前体験織り

工房ゆうの「ゆう」は、人と人とをむすぶ「結」。自由で遊びごころたっぷりな手織りである『さをり織り』を通じて、障がいのある人もない人も共に、地域で力を合わせて生きていける社会をめざします。

私たちが織った『さをり織り』は、マフラーや服となって「カラダ」を守り、パンケースやポーチとなって「モノ」を守ります。そして、マスコットやブローチとなって「ココロ」を守ります。

昨年 12 月から、東急ハンズ名古屋店にてブランド M.I.E の販売が始まりました。『工房ゆう』からは、畳織りコースター・カルトナージュボックス・春夏ストールなどを出品しています。(三重県内の 5 事業所が、三重県雇用経済部雇用対策課障がい者・女性雇用班と、東急ハンズ名古屋店の協力を得て立ち上げたブランドです。)

だれでも・自由に・自分のペースで「さをり織り」を楽しもう!

「さをり織り」の販売などを行うことで、障がい者の自立を目指しています。さまざまな場所で展示・販売を行っています。ご購入はもちろん販売させていただける場所も募集しています。

情報提供：松阪市市民活動センター

## こども在宅とりハビリテーション・ケアについて考える会

☎090-5537-6717 (代表・小山さん) ✉goyama@yahoo.co.jp



交流会

障がいのある子(主に医療的ケアが必要な障がいのある子ども)への理解を深め、地域全体で支え合える社会をつくろうと今年 8 月から活動しています。医療的ケアとは、生きる上で必要な医療援助のこと。例えば、気管に溜まった痰を吸引する「痰吸引」などが当てはまります。実は近年、医療的ケアが必要な子どもが増えてきているといわれています。同会では、まずそのような子の在宅での生活の現状を把握したいと、当事者・その親・特別支援学校の先生などに話を聴き、関連する研修会へ参加してきました。そして、看護師などの専門スタッフが必要であるため、医療的ケアが必要な子どもを受け入れられる施設が非常に限られること、家族の介護負担の大きさ、地域社会との接点が少ないという課題を知りました。そこで 9 月より障がいのある子(主に医療的ケア児)に関する自主勉強会や障がい児者との交流会をスタート。今後も当事者やその家族と地域をつなげる活動に取り組んでいきます。

勉強会・交流会への参加者、また事業を一緒に企画・運営するメンバーを募集しています。詳しくは、電話かメールでお問合せください。

勉強会は、当事者はもちろん、地域の人も誰でも参加できるオープンな会です。交流会ではスポーツや BBQ などを企画し、障がいがあっても「できる」「楽しめる」体験を通じて、社会参画のきっかけにつなげていきます。

## NPO 法人南勢子どもの発達支援センターえがお

情報提供：いせ市民活動センター

〒516-0016 伊勢市神田久志本町 1718-16 ☎0596-65-7039 ✉npo-egao@egao-nanseri.com



年 1 回行われるえがおフェスティバル

NPO 法人南勢子どもの発達支援センターえがおでは、障がいがあったり発達が気になったりする子どもたちに対して、療育や訓練等を通じて支援を行っています。中心的な活動は、障がい児通所支援事業で、就学までの小さい子どもの支援を行う児童発達支援と、小学生から高校生までの子どもの支援を行う放課後等デイサービスを行っています。それぞれのサービスの中で、個別の療育やグループの療育、個別言語訓練やグループ言語訓練を行っており、「子どもたちが自分の力を発揮し、『やったー。』『できた!』『また、やりたい』といった気持ちを持てるように、子どもたちと支援者との楽しいやりとりや関わりを大切にしながら活動を行っています。

また毎月第 2 土曜日には、集団療育活動を行っており、支援者やボランティアさんと一緒に、製作活動をしたり、運動をしたり、調理や外出などの活動を通して、余暇支援や自己実現につながる支援を行っています。

Eメール、電話等でご連絡ください。

NPO 法人南勢子どもの発達支援センターえがおは、「子どもがえがおになれるような楽しい場」をモットーに、日々子どもたちと楽しく関わっています。